

第69回帯広市PTA連合会研究大会兼子育て研修

子育て未来フェス2025

いま 未来

『現在から未来へ』

～親子で育てる、希望の種～



研究紀要



OBI P 帯広市
PTA連合会
STYLE

日時 令和7年11月30日(日) 13:00～16:00
主催 北海道PTA連合会帯広市PTA連合会
後援 帯広市教育委員会

研究大会開催にあたって

帯広市 PTA 連合会 子育て教育部長 細野 雄一

子育て未来フェスは、「現在（いま）から未来（みらい）へ ～親子で育てる、希望の種～」をテーマに、保護者やお子さん、教員、皆様が一堂に会して気づきや実りある学びのご提供を目的としております。

教育現場では、多様な価値観の共存や豊かな人間性を育てる指導、情報教育などが課題となっており、これらに対応したアプローチが必要となっております。今回、7つの分科会ではお子さんが自信や夢を持ち、生きる力を育むなどの多彩な話題を深掘りし、参加者皆さんが抱いていた「？」や「ㄋ」を「！」や「ㄋ」へ変えていく内容をご用意しました。

コロナ禍を経て、「間」の考え方が変化し、例えば「時間」は動画の倍速視聴などタイムパフォーマンスを優先し「間」が削られ、「空間」は、物理的な「間」の距離が生まれました。今回、フェスに関しては同じ「空間」で「人間」同士距離を取らず、同じ学びを行う「仲間」として「時間」をかけて「！」の「瞬間」を共有出来たら幸いです。

最後に、今日学んだ事を実践したり、他の人へお伝え頂いたり、学んだ種がどんどん広がり、希望の種は芽となり、大きな花が咲く事を期待しております。

『子育て未来フェス 2025』現在から未来へ ～親子で育てる、希望の種～

- 1 目的 変化の激しい社会の中で、生涯学習の観点に立ち、学校・家庭がそれぞれの機能を有機的に果たしながら地域と連携し合い、子どもの未来と豊かな可能性を活かせるような成人教育を推進する。
- 2 期日 令和7年11月30日（日）13：00～16：00
- 3 会場 とかちプラザ（帯広市西4条南13丁目1番地）
- 4 主催 北海道 PTA 連合会 帯広市 PTA 連合会
- 5 後援 帯広市教育委員会
- 6 日程 12：30 受付
13：00 分科会（前半）
14：20 休憩・移動
14：40 分科会（後半）
16：00 分科会ごとに閉会・終了



◇分科会（前半）13:00～

第1分科会 【2F 視聴覚室】	演題 「愛と自信をはぐくむ言葉かけ」 講師 千葉 孝司 氏（ちばTラボ代表）	親
第2分科会 【4F 調理室】	演題 「給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦」 講師 立花 洋子 氏（帯広市学校給食センター管理栄養士）	親
第3分科会 【4F 講習室402】	演題 「生まれてきてくれてありがとう～私が性教育で伝えたいこと～」 講師 松本 早織 氏（性教育プレゼンター）	親
第5分科会 【1F ギャラリー】	演題 「姿勢が及ぼす人体への恐怖」 講師 森 健太郎 氏（森鍼灸整骨院）	親子・親・子
第6分科会 【1F 大集会室】	演題 「キッズものづくり講座」 講師 帯広市放課後子ども広場スタッフ	親子・子



◇分科会（後半）14:40～

第1分科会 【2F 視聴覚室】	演題 「愛と自信をはぐくむ言葉かけ」 講師 千葉 孝司 氏（ちばTラボ代表）	親
第2分科会 【4F 調理室】	演題 「給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦」 講師 立花 洋子 氏（帯広市学校給食センター管理栄養士）	親
第4分科会 【4F 講習室402】	演題 「生きる力をはぐくむ親子の片付け」 講師 はせがわ あかね 氏（片付けクリエイター）	親子・親・子
第5分科会 【1F ギャラリー】	演題 「姿勢が及ぼす人体への恐怖」 講師 森 健太郎 氏（森鍼灸整骨院）	親子・親・子
第6分科会 【1F 大集会室】	演題 「キッズものづくり講座」 講師 帯広市放課後子ども広場スタッフ	親子・子
第7分科会 【4F 講習室】	演題 「誰でも気軽に！～生涯スポーツ推進の取り組み～」 講師 帯広市教育委員会	親子・親



「繋がり学び高め合う」

北海道PTA連合会

会長 廣瀬 堅一

令和7年度第69回帯広市PTA連合会研究大会兼子育て研修会『子育て未来フェス 2025』が多くの会員の皆様、そして教育関係諸団体の皆様ご参集のもと盛大に開催されますことに心からお祝い申し上げます。また日頃より北海道PTA連合会の活動に対し、多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

昨今は多様性が尊重され、人々は個々の幸せや生きがいを感じられるような生き方を求めるようになってきました。一方で、私たちは激しい変化が止まることがない時代を生きており、不確実性の高まりを実感する場面も多くなっています。そのような社会で、子どもたちは持続可能な社会の創り手となり、自らの人生を舵取りする力を身につけ、豊かな可能性を開花できることを期待されています。これに対してPTAはどんな存在であるべきでしょうか。PTAの趣旨は、家庭・学校・社会が力を合わせて子どもたちの幸せのために努力していくというものです。子どもが正しく健やかに育つための組織、つまり主語が「子ども」の組織として個々を繋げていく「社会教育」を実践する場です。保護者や教職員が自ら参加したくなるような活動をしていく、そこでお互いが繋がり学びあって高め合えるPTA、それを実現できれば大人が満足感を得られ、子どもにもよい影響が与えられるはずです。負担感がなくなるような組織の見直しが求められていますが、この本質を崩さず子どもを中心に据えることを忘れずにスクラップアンドビルドしていけば、さらにPTA活動が価値のある意味のある、なくしてはいけないものになるに違いありません。

本日開催されます『子育て未来フェス 2025』は、まさに人と人を繋ぎ、学び合い高め合える機会と言えます。本日学んだことを地元で繋がっている人たちに伝えていく、学んだ喜びに満ちた姿をわが子に見せる、そして自分たちの学校のPTAを見つめ直して意欲的に関わられる組織にしていけることができれば、今日の半日がより価値のあるものになります。是非、積極的にご参加いただき、子どもたちの笑顔に繋がっていただけたら幸いです。

結びとなりますが、『子育て未来フェス 2025』を開催するにあたりご尽力をいただきました市P連の役員・事務局をはじめ多くの皆様へ心から感謝の意を表すると共に、ご参加いただきました皆様にとって本日の研究大会、子育て研修会が明日からの生き方に意味あるものになることをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第69回帯広市PTA連合会研究大会～ご挨拶

帯広市教育委員会
教育長 村松 正仁

第69回帯広市PTA連合会研究大会の開催にあたり、心よりお祝いを申し上げます。また、日頃より子どもたちの健やかな成長と明るい未来を考え、帯広市の教育振興にご尽力いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

近年はデジタル技術の高度化やグローバル化の進展により、子どもたちを取り巻く環境が急速に変化しております。そうした社会情勢の中、社会の変化に主体的に向き合い課題に取り組んでいける人や、ふるさとの発展に貢献しようとする人の育成に加え、人や地域とのつながりづくりを進めることが求められています。

帯広市PTA連合会では「自ら学ぶPTA」「自ら行動するPTA」「必要とされるPTA」を基本目標に掲げ、子どもたちの未来のために自らが学び実践する「^オビ^ビー^スタイル」を通して、学校・家庭・地域をつなぐ活動に取り組んでおられます。不確実性の高い時代において、皆様の活動はますます重要となっていくことと思います。

帯広市教育委員会では、ふるさとの歴史や文化、自然環境や産業などを学ぶ「おびひろ市民学」をより一層推進し、本市の特色を生かした教育活動を展開するほか、ICTを活用した教育活動の推進、コミュニティ・スクールや生涯学習推進委員会の活動を推進し、地域や家庭と連携した教育に取り組んでまいりたいと考えています。

本日は、「^{いま}から^{みらい}へ～親子で育てる、希望の種～」をテーマに、分科会ごとの多様なジャンルの講演や実習を通して、親子で共に学ぶ素晴らしい機会となります。この大会を契機とし、多くの皆様が学びの成果を共有され、子どもたちの明るい未来につながっていくことを期待申し上げます。

結びに、本研究大会をはじめとして北海道PTA連合会、帯広市PTA連合会の益々のご活躍と、皆様のご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

帯広市 PTA 連合会第 69 回研究大会兼子育て研修会開催に当たって

帯広市 PTA 連合会

会長 佐藤真也

本日は、第 69 回研究大会兼子育て研修会にお越しいただき、誠にありがとうございます。会長として、心よりお礼申し上げます。

今年度の研究大会テーマは「現在から未来へ」～親子で育てる、希望の種～です。この言葉には、私たちが今まさに向き合っている子育てや教育の営みが、未来へとつながる希望であるという強い思いが込められています。

子どもたちは、私たちの社会の未来そのものです。その未来をより良いものにするためには、家庭と学校、そして地域が一体となって、子どもたちの成長を支えていくことが何よりも大切です。親子で過ごす日々の中で交わされる言葉、共に過ごす時間、そして小さな挑戦や喜びの積み重ねが、やがて子どもたちの心に「希望の種」として根付き、未来を切り拓く力となっていきます。

PTA の活動は、そうした日々の営みを支える大切な役割を担っています。保護者と教職員が協力し合い、子どもたちの安全や健やかな成長を見守ることは、決して派手ではありませんが、確かな意義と責任を伴うものです。そんな皆様をサポートさせて頂いているのが、我々帯広市 PTA 連合会の役割だと考えています。連合会の組織は社会総務部・子育て教育部・広報部の 3 つの部会で構成しています。社会総務部では会員相互の連携と共有。広報部では、帯広市 PTA 連合会通信「OBI-STYLE」の発行。そして、本日の研究大会を運営する子育て教育部です。

本日の研究大会では、さまざまな視点から子育てや教育について考える機会が得られることと思います。参加者の皆様が、それぞれの立場で新たな気づきや学びを得て、今後の活動や日常の関わりに活かしていただければ、これ以上の喜びはありません。

最後になりますが日頃より帯広市 PTA 連合会の活動にご尽力いただいている皆様、そして本大会の開催に向けて準備を重ねてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。これからも共に、子どもたちの未来を育む歩みを続けてまいりましょう。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

第1分科会 ◇愛と自信を育む言葉かけ◇

講師 千葉 孝司 氏(ちばTラボ代表)



子供の主体性を育てるには、失敗を責めない安心できる環境が欠かせません。失敗を責められるとやる気を失ってしまいます。子供には自分で決める機会を与え、対話を大切にしてお互いに一方的に支配しないことです。

現代社会では悪い情報が身近に届きやすく、自信を持ちにくい状況があります。ネット上には優れた存在があふれ、子供は自己肯定感を失いやすくなっています。遊びがデジタル化し集中力は高まりますが、感情のコントロールができず、人の気持ちを察することが育ちにくいです。遊びの時間は世界的に不足しており、学びや働くと同じくらい大切にすべきです。

失敗を許さない社会では小さな失敗の経験が足りず、ある日、動けなくなってしまう。また、悪いことの経験も適度に必要で、ほどよい適当さは、寛容さを育てるきっかけになります。大人の心配が強すぎると子供を縛り、心の境界線を壊してしまうことがあります。成長に合わせて境界線を少しずつ弱め、子供が自立できる距離感を保ちましょう。大人の比較や白黒思考は子供に伝わり、キレやすくなったり自信を奪う原因になります。理解することとできることは別で、丁寧に時間をかけた練習が必要です。それでも苦手なことはあります。そんな時は、できることを評価する方が苦手なこともやるようになります。大人の思うようにしようとすると子供の豊かな人生を奪ってしまいます。まずは分かってあげる。子供が変わっていく力を信じてあげましょう。大人が子供の言葉を打ち返し、たくさん言い聞かせようとする、言葉が心の毒となり関係が遠ざかります。子供の気持ちを想像して受け止めることで、主体性と成長する力が育ちます。だいじょうぶだよ、何があっても乗り越えていけるよ、ということを育てていくことが大事なのです。



第2分会 ◇給食人気メニュー 肉じゃがづくりに挑戦!◇

講師 立花 洋子 氏 (帯広市学校給食センター管理栄養士)



第2分科会は、学校給食の中でも人気のある「肉じゃが」づくりに挑戦です。

この分科会は、参加者の皆さんが協力して調理し、試食まで行うという超参加型・実践型の講座となりました。

受講に必要なものは三角巾とエプロン、手拭きだけで、調理用具から食材まですべて主催者側で準備し、さらに給食センター秘伝のレシピも配布しました。

今回作った肉じゃがは、芋をレンジで加熱した後に油で素揚げします。あらかじめ調理して味を調べておいた豚肉と素揚げした芋を、フライパンを使って合わせて炒めて仕上げます。このレシピは給食センターに昔から伝わっていますが、考案された経緯がわからないとのことでした。

調理後には、みんなで感想を話し合い、楽しく試食していると、あっという間に時間が過ぎました。



第3分会 ◇生まれてきてくれてありがとう～私が性教育で伝えたいこと～◇

講師 松本 早織 氏 (性教育プレゼンター)



松本さんは自らも九歳の息子さんを育てるお母さんで、自身の体験から子供と一緒に学べる性教育を伝える活動をされています。

大切な我が子に質問された時にどう答えるか、子供をどう守れるか、性教育は愛情を手渡すこと、簡単なことも伝えておくことで子供のお守りになることであると考えます。

今、小中学生が学校でどのような性教育を授業で受けているのか、また私達もちゃんと授業で習った

記憶がないかもしれないが、学校では身体の仕組み、命の誕生に触れて、詳しいことはほとんど教わらない。そこでインターネットが登場してしまう。ユネスコが発表している性教育の適正年齢は5歳、日本は本当に遅れているのである。海外ではすごくオープンに性教育を行っており、隠すことという風にとらえていない。男女一緒に同じことを学ぶ。修学旅行や宿泊学習前の生理が来たらという話も男女別にするから触れてはいけない事のような風潮になってしまう。まずは男女がお互いの身体の事を知ることがスタートである。

そして私達の時と決定的に違うのが、インターネットがすごく身近にあるという事。ちょっとクリックすれば、すぐに卑猥な画像や動画が見られてしまう。そして、自分の都合のよい情報だけを切り取って信じ切ってしまう傾向にある。見てはダメではなく、見てひとりで「なるほど」これで終わってしまうからダメなのだ。現代の子は私達の時代より2年は早いと思って正解。性教育も早くアップデートしなくてはならない。

また性教育は犯罪から身を守る事にも繋がる。性教育は防犯教育でもある。ネットで知り合った人と直接会って被害にあってしまった、また自分の画像がSNSに流出してしまった等。13歳以下の性被害件数は年間1,000件、出回っていないものも含めると5~10倍の数になるという。大人に言わない為発覚すらしめない。子供は自分が受けた行為を性被害だと認識できていないこともある。だからプライベートゾーンの話はとても大切。子供を被害者にも加害者にもしないのが重要である。今のこの時代、子供達を情報から遠ざけるのはほぼ不可能である。だから自分で自分を守る能力が必要になってくる。

日本は若者の自殺者がすごく増えている。先進国では日本だけである。一見不自由なく豊かな国で、自分のことを好きと思えない子供がとても多い。すごく愛されて生まれてきたんだよ、生まれてきてくれてありがとうと言われて育った子は自分の事を大切に出来るようになる。困難にぶつかっても愛情貯金があれば、それをつかってまた頑張っていける。性教育とは、生きる事そのものの教育である。命の始まりから終わりまで親子で語り合える関係でありたいと願う。



第4分科会 ◇生きる力をはぐくむ親子の片づけ◇

講師 はせがわ あかね 氏(片づけクリエイター)



家庭それぞれ、親子の片付けバトルは様々。子供が何歳になっても片付けの悩みはつきない。講師自身も子育てをしながら、片付けの「仕組み」を作った。今回は、実際に自宅でやっていることや声かけ、片付けのキホンを紹介する。

片付け＝部屋をキレイにすること、を気にしがちだが、実は片付けは子供に身に着けてほしい「生きる力」を学ぶことが出来る。選択力、想像力、習慣力といったように生きていく上で糧になる力だ。このように、ただの作業ではなく大切な力を育む子育ての一環なのだから、すぐにできなくて当たり前なのだ。

では、まず何をしたらいいのか。そもそも、「片づける」とは、「ものを元の場所に戻す」こと。ものの「お家」を子供と決める。無理なく戻せるように、ラベルを貼ったり絵をかいたり工夫もよい。児童館などがとても参考になる。他には、適量や導線を意識したり、仲間を作ってまとめたりなどの仕組みをつくる。

同時にもう一つ大切なことは、上手な関わり方。両方が噛み合うことで家庭内の片付けがうまく回るようになる。子供に片付けをしてほしい場合、子供に合わせる。具体的には要不要の声かけを、「これいらんないんじゃない？」など決めつけるのはNG。悲しい気持ちになり片付けと向き合うことを拒んでしまう。そんな時は「今、使ってる？」と事実ベースでたずねること。感情で「全部いる！」となるのを回避できる。

以上のことを、出来そうなことからまずやってみてください。そして子供を巻き込んでみてください。子供は実は巻き込まれるのが大好き。一旦任せてみる。案外遊び感覚で楽しんだりするかも知れない。



第5分科会 ◇姿勢が及ぼす人体への恐怖

～親子でストレッチ 未来の体を見つめ直そう!～◇

講師 森 健太郎 氏(森鍼灸整骨院)



第5分科会では、講師の森先生と、東京からお越しいただいた講師の方の2名で講演と演習を実施しました。

はじめに、近年増えているストレートネックや姿勢の乱れが、自律神経や体調に及ぼす影響について説明がありました。日常生活におけるスマートフォン使用時の姿勢など、身近な例を交えた内容で、理解を深めることができました。

その後、タオルを使い、首から骨盤までを意識した、無理のないストレッチを親子で実践しました。家庭でも継続しやすい方法で、体の変化を実感でき、親子で健康について考える有意義な分科会となりました。



第6分科会 ◇キッズものづくり講座◇

講師 帯広市放課後子ども広場スタッフ



「クリスマスリース」「紙皿ツリー」「コルクで作るお人形」「折り紙(手裏剣、紙コプター、紙飛行機)」「紙コップラッピングバック」の5つのブースがあり、各自でブースをまわりながら工作体験をしました。

「クリスマスリース」では、好きな折り紙を8枚選び、折る→組み立て→飾り付けと、じっくり考えながらオリジナルの作品を作り上げていました。

「紙皿ツリー」は、毛糸を穴に通すところを頑張った後、キラキラ輝く飾りを沢山付け、華やかな作品が出来上がっていました。

「コルクで作るお人形」では、毛糸、どんぐりの帽子、キャップ帽子等の材料を自由に組み合わせ、子供達の発想豊かでオリジナル溢れる可愛い作品が沢山出来上がっていました。

「折り紙」は、バラやサイコロ、鳥などを作って見せてくれる子もいました。「紙コップラッピングバック」も飾り付けのシール選びを楽しそうに友達とおしゃべりしながら、可愛い

作品がいっぱい出来上がりました。全体を通して、どの子も工作好きで、じっくり時間いっぱい作品作りに取り組んでくれました。



第7分科会 ◇教育懇談会～誰でも気軽に!生涯スポーツ推進の取り組み～◇

講師 帯広市教育委員会



帯広市で実施されている「生涯スポーツ推進の取り組み」について「多様なスポーツ活動の促進」「スポーツによる活力あるまちづくり」「スポーツ施設の整備・管理運営」の3つの視点から紹介いただいたのち、教育長及び教育委員4名との懇談を行った。

帯広市出身で長野オリンピック金メダリストの清水宏保氏をリーダーとした「ほっとドリムプロジェクト」においては、初心者・未就学児対象のスピードスケート教室や学校授業

への講師派遣などを通じた裾野拡大事業に取り組んでいるほか、幼児から中高生までの競技者向けの講習会や交流会といった競技者育成事業「スケートキングダム」を実施しており、こども達がオリンピック選手やメダリストから直接技術指導を受けたり、交流できる機会を提供している。

また、市民が身近な場所でスポーツ活動ができるよう、体育館やプールなどの学校施設を開放する学校開放事業が行われているほか、大会・合宿の積極的な誘致やスピードスケートのワールドカップやフードバレーとかちマラソン大会といった大規模なスポーツ大会の開催など、スポーツによる活力あるまちづくりの取り組みが進められていること、帯広市のスポーツ施設の整備・管理運営に関わり、プールやアイスアリーナなど様々な競技に対応する運動施設が市内にあることや各運動施設で行われているスポーツ教室などが紹介された。

取り組みの紹介とあわせ、誰でも気軽に楽しめるニュースポーツの一つである「モルック」を参加者全員で体験し交流を深めるとともに、スケート授業やスポーツ施設の利用などについて意見交換が行われた。

今後も、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりに期待したい。



『子育て未来フェス2025』第69回帯広市PTA連合会研究大会兼子育て研修会
参加者アンケート集計結果

回答数 計51

良かった	49	検討の余地あり	2	合計	51
------	----	---------	---	----	----

今年度の「子育て未来フェス」も昨年度同様、会員の学びの充実を最大の目的とし、前半・後半の分科会形式で開催することができました。今年度は、親子で参加できる分科会を増やし、子どもたち向けの分科会も設定しました。「体験型の分科会が参加しやすかった」「とても有意義な時間でした」等のご感想を多数お寄せいただきました。

参加してくださいました会員の皆様、そして、計画から準備・当日までご協力いただいた子育て教育部員の皆様、並びに市P連役員の皆様、そして市P連広報部の皆様に心より感謝申し上げます。

アンケートでいただいた成果を引き継ぎつつ、改善すべきご意見は次年度の「子育て未来フェス」の更なる前進に向け、生かしていきたいと考えております。



